

# 区政会館だより

No.324

平成29年3月

港区



「豊富温泉体験WEEK」。オープニングセレモニーは悪天候により豊富町長は不参加だったが、港区職員が代行し盛り上がった

特別区長会事務局  
特別区議会議長会事務局  
特別区人事・厚生事務組合  
公益財団法人特別区協議会  
東京二十三区清掃一部事務組合  
特別区競馬組合



## 行政が仕掛けたビジネスモデル

北区



山形県酒田市で稲刈りを体験する北区の子供たち

## 歴史がつなぐ3都市との友好交流





記者発表で、実際の豊富温泉の湯を見せながら説明する武井雅昭港区長

## 行政が仕掛けたビジネスモデル

**アトピーに救いの湯が港区に来る**

「いい湯だな」

今年2月18日から26日まで、港区にある5カ所の銭湯のうち4カ所（残り1カ所は元々、天然温泉）で、北海道・豊富温泉の湯を体験できるイベントが行われました。港区、北海道豊富町、東京都公衆浴場業生活衛生同業組合港支部の3者が連携したイベントです。

「豊富温泉」と聞いて、どこにあるのか、どんな温泉なのか、ご存じでしょうか。豊富町は、日本最北端の街・稚内からJR宗谷本線を特急で4分、札幌からだと特急で約5時

### 1+1が3になる相乗効果も

今年2月、北の大地で湧出するアトピーに効能の高い名湯を東京都心の銭湯で体験できるイベントが行われました。その温泉とは豊富温泉。北海道豊富町と港区をつなげたきっかけは、国産間伐材を活用した地球温暖化対策の取り組みでした。豊富町ではこのことをきっかけに間伐材を活用したお箸を町ぐるみで商品化し、一つのビジネスモデルをつくりました。そして、両者の連携は別の分野にも広がり、温泉水を活用した銭湯イベント開催までに至りました。港区の取り組みから、新たな全国連携の在り方を探つてみました。

豊富町から「温泉濃縮水」と「スパバウダー」の提供を受け、港区にいながら豊富温泉の名湯を味わえるというこの試み。豊富温泉の実際のお湯は、真っ茶色の油が浮かび、油

**港区内の銭湯で  
北海道豊富温泉の  
体験ができます！**

**全国につながる  
連携の 港区**

**港区  
MINATO  
CITY**

区民とともに創る  
安全で安心できる  
港区

区民とともに創る安全で  
安心できる港区

港区  
MINAT  
CITY



の臭いが特徴的ですが、イベントでは、家庭用の温泉濃縮水を使用するため、油分はありません。

また一部の銭湯では、豊富町のもう一つの基幹産業である「酪農」と

も連携し、豊富町産の牛乳を使ったアイスクリームやプリンの販売も行われました。

温泉濃縮水やパウダー、配送料などの経費は豊富町が負担し、区はPRなどを担当。特產品などは各銭湯が購入・販売しました。

## 国産間伐材の活用がきっかけ

これまで港区は、きっかけや目的は異なりますが、様々な分野で全国各地の自治体と交流・連携を進めきました。北海道佐呂間町、山形県舟形町、福島県いわき市、岐阜県郡上市とは、商店街を中心が始まった交流が広がっています。忠臣蔵や徳川吉宗、台場など歴史上のゆかりをきっかけとして始まつた交流もあります。

都市と山間部の自治体が協働して国産材の有効活用を進め、低炭素社会の実現を目指す港区独自の制度「みなしモデル」酸化炭素固定認証制度には現在、78の自治体が参加し、毎年開催する「みなし森と水サミット」には各自治体の長が集まります。

です。

豊富町との交流も、「みなしモデル」がきっかけでした。2016(平成28)年4月、協定自治体に加わった豊富町から、国産木材使用だけでなく、他の産業・地域資源を活用した、地域を拡大しての連携・協力について提案がありました。これを受け、同年7月、港区長と北海道

宗谷町村会（8町1村、猿払村・浜頓別町・中頓別町・枝幸町・豊富町・礼文町・利尻町・利尻富士町・幌延町）の首長と初めての会談が行われました。



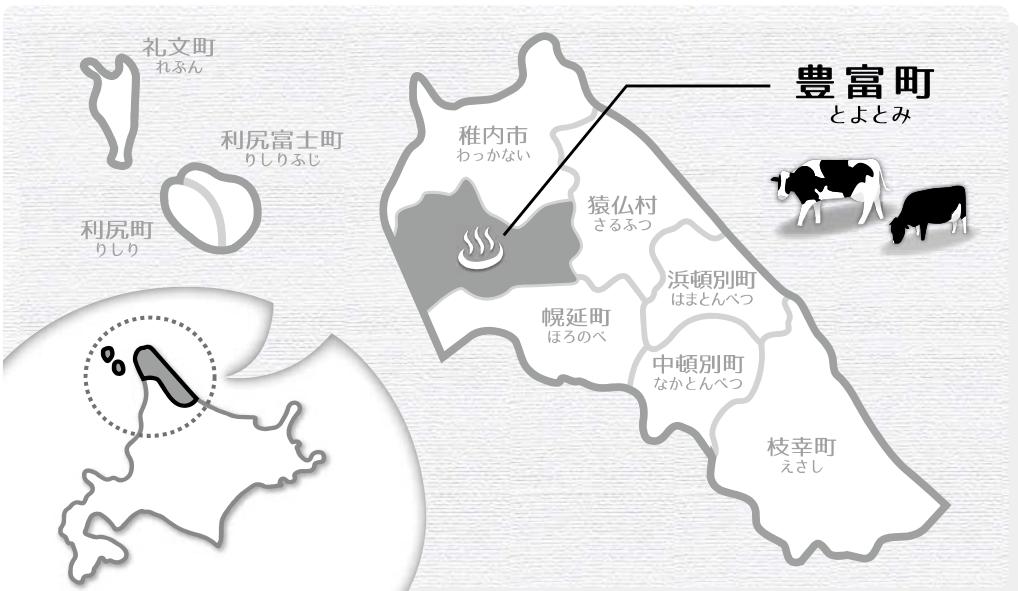
平成28年11月に開催された第9回のみなし森と水サミット。多くの首長が参加し、国産木材の利用促進について議論しました

10月には「みなし区民まつり」に豊富町や中頓別町、礼文町が参加しましたほか、11月には区内で利尻富士町との共催イベント「利尻島と利尻山をテーマとしたスライド＆トークショ」）と「利尻昆布などを使ったワークショップ」が開催されました。

さらに、12月開催の「港区政70年記念式典」では、北海道宗谷町村委会として物産ブースを出展し、多くの区民でにぎわいました。

国産木材活用をきっかけとした更なる連携・協力、新たな自治体間連携の始まりです。

この制度では、港区と「間伐材を



## 全国連携専管組織の立ち上げ

港区は昨年4月に専管組織として「自治体間連携推進担当」を設置しました。総合窓口として全国各地の自治体からの問い合わせなどに対応するだけでなく、相互に適した部署や連携事業への調整を行います。課長を含め職員3人が専任という体制は珍しく、機動力に繋がっています。担当者は「一つひとつの自治体が持つ資源は限られていても、互いの強みを持ち寄り、あるいは不足している部分を補い合い、基礎的自治体の横のつながりによる相互の活性化や課題の解決を目指すことができる」と語ります。

今年4月には、自治体間だけではなく、幅広い分野の連携を推進していく実態に合わせて、組織名を「全国連携推進担当」と改称する予定です。

## 人が集まる自治体ならでは

港区が目指す自治体間連携は、「互いが持つ地域資源やまちの魅力を生かしながら、自治体相互の活性化や住民の生活を豊かにしていくこと」



茶色に濁った豊富温泉の湯は油の臭いが特徴

先にあげたように、豊富町は、港区との協定に基づく国産間伐材の活用をきっかけに、「おハシのかけハシ物語」という「割り箸」による「豊

です。それは、ただ都市と地方が何かの事業やイベントで連携するというだけではありません。1+1が2だけではなく、3にも4にもなる効果を目指しています。

どういうことか。一つの事例を挙げましょう。



みなと森と水サミットがきっかけで、  
北海道宗谷町村会の首長と武井港区  
長が初めて会談しました

富猿払森林組合」「湯治移住者」「障害者福祉施設」との連携事業を始めました。

豊富猿払森林組合は、豊富町産シラカバなどの間伐材を活用し、割り箸として加工。木の香りを楽しめる国産の安心な箸です。間伐材の活用は、森林保護や林業育成にもつながる大切な取り組みです。箸袋のデザインは、湯治治療で豊富町に移住し

ます。港区内の銭湯で豊富温泉の湯を体験できるイベントは、豊富町にとって都心でPRできる機会となり、将来的な移住・定住への期待もできます。一方、港区内の銭湯にとても新たな顧客確保につながるかもしれません。そして港区民にとっても新たな顧客確保につながるかもしれません。そして港区民にとっては、アトピーや乾癬など皮膚病に効能があると言われている世界的にも珍しい温泉を、港区にいながら体験できるのです。

こうした行政が仕掛けた取り組みは、商業的に成り立たなければ長続できません。

その点、今回の取り組みは、全国

各地からたくさん的人が集まり、多くのファミリーが住む都心の自治体だからこそ成立する自治体間連携と言えるのではないでしょう。

たデザイナーが担当しました。そして、箸の袋詰めは、町内の社会福祉法人サロベツ・マイハートの利用者の皆さんに行っています。

こうして、豊富町産間伐材を活用したお箸のビジネスモデルが始まりました。